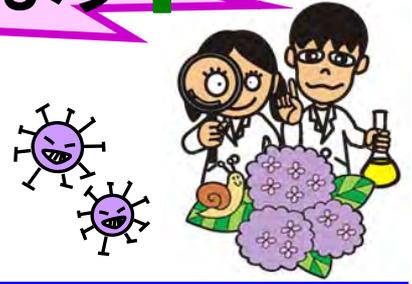


感染症に気をつけよう!

2017年【6月号】



横浜市内の感染症 流行状況

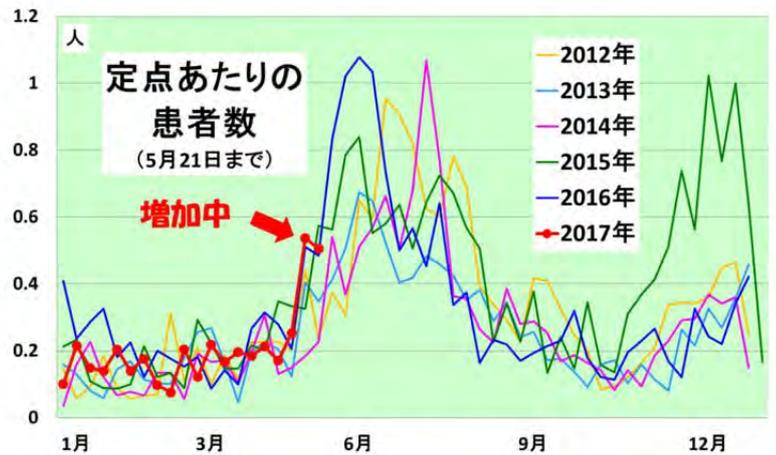
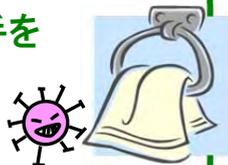
感染症	流行状況		説明 <small>【解説付き既刊号等】</small> クリック
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	やや流行	増加	3～8歳を中心に、報告が増加しています。これから夏に向けて、流行に注意が必要です。 <small>【15.3号】</small>
咽頭結膜熱（プール熱）	やや流行	増加	例年、夏にピークがあり、保育園や学校での集団発生も報告されます。今年も増えて来ました。 <small>【チラシ】</small>
手足口病	散発	やや増加	5月中旬から増加傾向です。最近では2013年と2015年に、警報レベルの流行がみられました。 <small>【13.8号】</small>

今、気をつけたい感染症 咽頭結膜熱（プール熱）

- アデノウイルスが原因です。主な症状は、発熱・のどの痛み・結膜炎で、通常、3～5日間続きます。
- 免疫機能が弱い人、乳幼児や高齢者などで、重症になる例もあります。



- 感染力が非常に強いです。
- プール熱とも呼ばれますが、プールの水以外からも感染します。
- 患者の鼻水・だ液・便などにいるウイルスが、患者の触れた物（例えばタオルやドアノブ）に付き、それをさわった手を介してうつる場合があります。



- 予防には、手洗い・うがいが大切です。
- タオル等は共用しない、プールの前後にはシャワーをきちんと浴びることに注意しましょう。
- 学校や保育園は、主な症状が消えた後2日間が過ぎるまでは、出席停止とされています。

